

学校名	新座市立第二中学校
実施日	令和4年1月20日

<記入の仕方>

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「**独自**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、「個に応じた学力の向上」をめざし、主体的に学習に取り組む生徒を育成するために、ICT機器を積極的に活用し、授業改善に取り組んでいる。	A	今年度は新座市教委研究委嘱の1年目であり、研究主題を「主体的に学習に取り組む生徒の育成」とした。その実現にあたってICT機器の積極的な活用を通じた授業改善を目指してきた。教職員の度重なるICT研修の成果及び国のGIGAスクール構想による生徒一人一台の移動式端末の配布もあり、この1年で授業におけるICT活用は、急速に発展することができた。その結果、日本教育工業協会から情報化に総合的に取り組み、教育の質の向上を実現していると評価され、「学校情報化優良校」として認定された。分散登校においても普段通りの授業を展開することができるほどの成果が得られている。	A	全教職員でICT教育の研修によく取り組んでいた。その成果が現在の様子に反映され、教師と生徒が相乗効果で成長できている。ICTに全てを頼るのではなく、不易と流行を大切に、今後もさらに発展させていくことを願う。新座市教委研究委嘱もまた1年目ということで、引き続き個に応じた学力の向上を目指すために、ICT活用の研究を進めていただきたい。
2	学校は、「豊かな心と健やかな体の育成」をめざし、教育相談、道徳教育、体力課題の解決、健康教育等の推進に取り組んでいる。	A	毎週、教育相談部会と生徒指導部会を行い、情報の共有化を図り、組織的な対応ができるようになっている。また、相談室登校の生徒への対応として、教師の空き時間を利用して授業を実施していることで、登校意欲を高められている。道徳教育を通して道徳の実践力や態度を育成するために、道徳主任が「道徳通信」を発行し、道徳の授業の質の向上に努めている。体力の課題解決については体育科が中心となり、新体力テストを分析し、バランスの良い体力向上を目指した授業を実践している。今後はこれらの成果を学校全体で共有できるシステムを構築していくことを目指していく。	A	生徒一人ひとりが大切にされていることが伝わってくる。大規模校でありながらも、それぞれの専門部会で情報共有を図りながら生徒に寄り添い、適切な対応ができていることについては、評価したい。道徳教育においても、学校全体で取り組みが実現できるような体制づくりが望まれる。
3	学校は、「保護者・地域との連携」をめざし、コミュニティスクールを充実させ、地域・家庭(PTA)・学校が一体となった教育の推進に取り組んでいる。	A	今年度も昨年度同様、コロナ禍のため思うようなPTA活動・学校応援団・ふれあい地域連絡協議会の活動は難しい状況であった。しかし、その中でもあったものは年間5回の学校運営協議会を中心に、PTAや学校応援団の協力を得て、学校の消毒作業や花壇の整備及び管理、性に関する教育講演会の実施等、感染防止対策を講じながらできる最適な支援をもらい、学校教育活動に取り組んでいる。今年度は新座市より「コミュニティ・スクール推進モデル校」として委嘱され、12月にはその成果を新座市地域学校協働活動講演会の中で発表した。	A	新型コロナウイルス感染症拡大で保護者・地域との接触が制限されることが多い中、地域ふれあい連絡協議会や学校応援団、PTAなどの連携により、学校環境整備や消毒作業等、子どもたちのための活動が進められたのは素晴らしい。また、保護者や地域の活動に見付いてくれる教職員が多くいることは励みになる。地域の意見も柔軟に対応していただき感謝している。

評価項目「**組織運営**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	教育課程検討委員会及び企画委員会で学校行事の精選・スリム化を実践することで、機能的な組織へと改善することができた。しかし、学校行事における役割分担への偏りへの改善及び適切に情報伝達共有化できるよう、管理職としても適宜助言・指導を行っていく。	A	管理職や校内リーダーが組織的な運営によく関わっている。以前より夜の校舎の明かりが見えなくなった。これは校務分掌の標準化が図られていることと表れたと感じる。学校行事等の役割分担などについては、さらに見直すことが求められる。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	校長が掲げる「目指す学校像」具現化に向けて、全教職員が共通理解のもと教育活動が展開している。さらに学校評価の各結果については、教職員と共有し組織的な学校経営の改善に役立っている。学校行事については、今年度も全体での実施はできなかったため、コロナ禍に応じた活動の工夫について振り返りを行い、来年度につなげていく。	A	教職員が自校の教育活動改善に努力していることが伝わってくる。全教職員が共通理解のもと、PDCAサイクルに基づく教育活動において成果を上げられている。コロナ禍においても、教職員の意見を出し合い、次年度につなげていってほしい。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	コロナ禍にあって、3密を避けるために集団的な行動が制約され、今年度も全校生徒による避難訓練が実施できなかった。しかし、様々な場面を通して、生徒への災害への対応を指導している。また、台風等の緊急な災害についても、スクールメール等も活用し、全教職員で組織的に対応できた。危機管理マニュアルについては、今年度見直しを見直しを実施しているが、職員への周知については、課題が残る。	A	危機管理体制は整備されていると考える。マニュアルは全教職員が見える場所で管理することが必要。学校敷地内には生活道路もあり、普段から市民も利用することができたため、コロナウイルス感染症拡大状況も考えながら不審者侵入避難訓練も実施してほしい。

評価項目「**学力向上**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	A	生徒が落ち着いて学習できる環境を整えるため、教員も含めチャイム数分前には着席・準備でき、時間どおりの授業開始が定着している。生徒アンケートでも「授業の決まりを守っていますか」では97.2%が肯定的な回答をしている。	A	授業規律が徹底されている。教員も含め、授業規律が守られるようになり、落ち着いた雰囲気での授業が展開されている。対話的な学びについても、これからはwithコロナの考えでできるよう、検討が必要である。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	A	学力向上プラン及び年間指導計画に言語活動の充実を明記し、計画的に指導している。学習支援ソフトの「ロイロノート」を積極的に活用することで、パソコン上で自ら思考し、生徒同士で意見の交流を図り、課題を解決していく授業スタイルが確立しつつある。その結果、生徒アンケートにおいても、「先生は授業中に説明するだけでなく、自分で考えさせたり、活動させたりしている」の項目で98.3%と成果にも表れている。	A	生徒アンケートで、「先生は授業中に説明するだけでなく、自分で考えさせたり、活動させたりしている」の評価が極めて高い。授業の改善を図られていることが分かる。ICT教育を実践する中で、言語活動についても大切に指導されていることが分かる。今後においても各教科内で情報共有を図り、更なる発展に期待したい。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	A	全授業で本時のねらいを明示し、授業の見通しをもたせて展開している。今年度の全国・県学力学習状況調査結果においても、ほとんどの項目が平均以上であり、各学年の伸び率も良好であった。AI型教材「キュビナ」を授業だけでなく、各学年週1回の朝読書及びジャンプアップタイムで活用することで、個別最適化学習を展開できている。	A	学力向上が図られている。朝の時間や放課後のジャンプアップの時間では、キュビナを活用し、個々にきめ細やかな指導が展開されている。指導の実践の中で良いものは互いに共有し、来年度にも残していきたいことを願う。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	A	英語の授業では積極的な表現で全生徒がオールイングリッシュに対応できている。コロナ禍で対話を活かした活動が制約されているが、飛沫防止用ガードやパノコンを介して対話できる、プレイクアウトルームを活用し、感染防止対策を講じ効果的な対話の活動を実施するなど、工夫した授業計画を行っている。	A	コロナ禍において、東京オリンピック・パラリンピックのチャンスを活用できなかったのが残念である。ICT機器を活用し、工夫しながら活動している様子も伺える。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いのできるよう指導している。	B	生徒のあいさつ及び言葉遣いについては、一昨年から学校の重点課題として取り組んだ結果、生徒及び保護者のアンケートでも、肯定的な評価が得られるようになった。しかし、まだ教職員の言葉遣いについて保護者からの指摘がある。言葉遣い、服装等、教職員が率先垂範し、いっそう生徒を取り巻く環境の整備に努めていく必要がある。	A	保護者アンケートにも肯定的な意見が見られた。着実に成果が上がっていることを評価したい。防犯上の観点からもあいさつは大切なことであるので、「あいさつは人より自分から」を徹底してほしい。今後も場に応じたあいさつができるよう、指導を継続してほしい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	A	いじめに対しては、毎月生徒アンケートを実施し、把握に努めている。毎週、生徒指導部において生徒指導主任を中心に、組織的な対応について検討を重ねていることから、認知からの解消が迅速に進んでいる例が多い。今後においても生徒・保護者用生活アンケートを活用し、潜在化するSNSを介してのいじめも含め、正義が通る集団づくりの形成を図っていくとともに、校内研修で情報収集及び教員間の共通理解に努めている。	A	いじめ・からかいの早期発見及び早期根絶が組織的に実践されている。互いに思いやること、仲間の努力やよさを認め合う機会を増やしてほしい。生徒のSNS使用が問題であり、今後も情報の収集等をお願いしたい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	「チャイム着席・授業準備」はできる学級が多い。教員も生徒に対し、時間への意識を促したり、ルールを遵守する意味を理解させたりしながら指導にあたっている。生徒アンケートでは「先生は、授業開始チャイムが鳴るとき、教室にいますか」で昨年より8ポイントも上昇している。しかし、教員の中にも言葉遣いを含め個人差があることから、今後も継続して啓発していく必要がある。	A	教職員が自らを律し、率先垂範している様子が伺える。全体的に昨年度より改善されていることは感じられるが、個人差があることも感じることがある。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	A	体育の授業では感染対策をしながら運動量を確保し、体育委員会を中心に屋休みの外運動を推進するキャンペーンを実施するなど体力向上に努めている。部活動では各顧問の指導の下、高い目標を持って心技体の向上に取り組む、県大会のみならず、全国大会や関東大会に出場するなど、活動できる範囲以内でも、効率的で効果的な部活動が実施できている部活動が多い。	A	屋休みの体育館開放やボールの貸出など、工夫して体力向上につながる活動が展開されている。部活動では心・技・体の向上を掲げ、好成績を収めることができた。今後もwithコロナでの総合的な体力向上の活動を行ってほしい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	給食・保健委員会と学校栄養職員が中心となり、食育の充実に取り組んでいる。学校栄養職員がオリ・パラ教育の一環として、ブラジル料理の献立を計画するなど、工夫して食育にも取り組んでいる。しかし、給食の食べ残しが多い日もあることから、健康教育の側面だけではなく、食品ロスへ関心をもちさせるなど、SDG'sを取り入れた学習も必要である。	A	現代的な課題を意識した食育は素晴らしい。食に関する情報や調理師の仕事など、食への健康については意識が高い。しかし、食品ロスなどは関心が薄いことも感じられる。今後も定期的に食育に取り組んでほしいと思う。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	地域の方から生徒の登下校の改善について要望があった時は、校長の指示のもと、生徒指導主任及び学年主任が中心となり、組織的な対応を行っている。学校評価における保護者アンケート結果についても、保護者からの寄せられた意見を教職員と共有し、改善に向け取り組んでいる。	A	大規模校で全ての要望を改善することは難しいが、その中でも出来ることから改善する努力はしていると感じる。地域の意見に対して、情報の共有が徹底され、対応が早いことは生徒の様子を見ていれば分かる。今後も意見を取り入れる機会は積極的に設けてほしい。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	学校だよりは、地域の方々へも配布している。その他、学年通信、保健・給食だより等についても、保護者がパソコンや携帯電話から見られるよう工夫し発信している。ホームページもPC操作補佐員の協力の下、毎週更新している。今年度は更にホームページが見やすくなるよう、ホーム画面をリニューアルした。	A	学校だよりは各町会では回覧板で周知されている。ホームページについても、毎週更新されており、タイムリーな情報が伝達されている。ホームページのホーム画面もリニューアルし、見やすくインパクトがあり伝わりやすい。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	今年度も引き続きコロナ禍のため、思うような活動はできなかった。しかし、PTA会長や学校応援団コーディネーターを中心協力体制もあり、感染防止対策を講じながら、花壇の管理や校舎内の消毒活動、下校パトロール等、できる範囲以内で工夫しながら支援してもらいながら、教育活動を実施している。	A	コロナ禍でも学校応援団を中心に少人数でも出来ることを工夫しながら実施し、成果を上げている。特に花壇の管理は、学校に和みと潤いをもたらしている。現在、行うことが難しい活動も、新型コロナウイルス感染症が収束傾向時に再開できるよう、準備を進めてほしい。